

普及活動情勢報告（平成28年12月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

J A土佐香美メロン部会夜須支部の現地検討会の開催



現地検討会の様子



新品種の果実を評価中

メロンの現地検討会が、12月6日にJ A土佐香美夜須支所で開催され、合計7名が参加しました。生産ほ場3ヶ所を巡回し、生育状況に応じた今後の栽培管理について、種苗会社の方からアドバイスを受けながら生産者間で意見交換しました。その後、えそ斑点病耐病性新品種について、収穫果実の外観評価を行い、農業改良普及課からは生育調査結果から確認された生育特性などについて報告しました。参加者からはえそ斑点病耐病性新品種は外観が良く、栽培がしやすいなどの感想が聞かれました。

農業改良普及課は、今後もメロンの安定生産に向けて支援していきます。

地域を守り雇用を生み出す農業について、西条市の「だんだん村」を視察研修



取組経過等を聞いている様子



ほ場にて管理状況等を視察している様子

11月21日、香美市の農業振興策等の検討組織「香美市営農対策協議会」9名と、J A土佐香美洋菜部会1名が、愛媛県西条市で青ネギなどの露地作物を生産し、地域の農地を守っている農業生産法人「㈱だんだん村」を視察しました。

農業改良普及課は、産地の維持・発展に向けて、今回の視察研修の準備等を支援しました。

「㈱だんだん村」では労働環境の整備や労務管理、日出荷量を最大にするためのコスト計算、梅雨等の自然条件に左右されないほ場準備、セルトレイの枚数から算出する収量予測など、建設業で培われた経験を生かす取り組みを学びました。

参加農家は「この取り組みを部会の青壮年部にも見てもらいたい」などと話したことから、再度受け入れてもらうことになりました。

今後も農地が継続して守られ、地域に雇用が生まれ、産地が維持・発展する仕組みづくりを支援していきます。

ニラの葉先枯れ対策を確立しよう ～中央東地区環境制御技術普及推進会議（第2回）～



中央東地区環境制御技術普及推進会議（第2回）より

12月13日、農業改良普及課は香美農林合同庁舎で第2回中央東地区環境制御技術普及推進会議を開催し、生産者代表5名を含む、29名が出席しました。

農業改良普及課からはニラやシシトウ等での現地実証ほの進捗状況を、県関係機関からは県内主要品目の試験状況、炭酸ガス発生機や環境測定装置の導入状況などを報告しました。

今回は、ニラの環境制御技術において課題となっている葉先枯れ対策が議論となり、生産者からは「換気をしたら出ない」、「最低温度が低すぎる」、「地下部を充実させたい」といった具体的な意見が出されました。

農業改良普及課は、環境制御技術導入農家や関係機関と連携しながら、ニラの葉先枯れ対策の確立に取り組めます。

ニラ産地の新規就農者育成講座（グリーンカレッジ）の開催



新規就農者の圃場で意見交換

J A土佐香美ニラ部会の新規就農者を対象にグリーンカレッジを開催し、9名が参加しました。

今回は、経営が良好な新規就農者や先進的な指導農業士のほ場で、経営主から栽培や経営の説明を受け、意見交換を行いました。

低コストで同じ効果を出す方法や栽培管理の工夫等、日頃から悩んでいたことについて積極的な意見交換があり、参加者から「僕もやってみたい」、「そんな工夫の仕方があったのか」などの発言が聞かれました。

今後、農業改良普及課は、J Aと連携して新規就農者のスキルアップの機会を設け、ニラ産地の担い手を育成していきます。

来年度のオクラ栽培に向けて



説明を聞く生産者

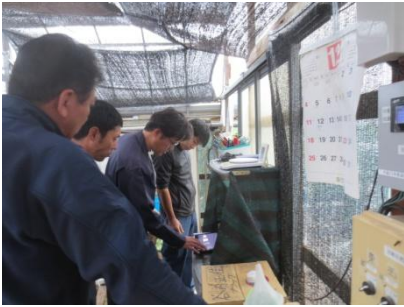
12月2日、J A土佐香美オクラ部会の反省会と栽培講習会が開催され、生産者、市場関係者、J Aなどの関係機関を含む、総勢54名が参加しました。

農業改良普及課からは、栽培期間中の温度データを用いて、ハウスやトンネル内の環境について説明しました。J A担当者からは平成28園芸年度に発生が多かった病虫害や栽培管理のポイントを説明し、機械メーカーからは、播種機の実演がありました。

生産者からは、追肥のタイミングや播種機の作業性について、質問や意見が出されました。

農業改良普及課では、引き続き関係機関と連携して、オクラの安定生産に向けて取り組んでいきます。

J A土佐香美管内ニガウリの現地検討会の開催



環境測定モニターを見ながら管理について意見交換中

J A土佐香美夜須支所管内の促成ニガウリ生産ほ場において 12 月 12 日に現地検討会が行われ、生産者 3 名が参加しました。生育状況を見ながら、省力的な整枝方法や温湿度、炭酸ガス施用、かん水管理などの環境管理について意見交換を行いました。農業改良普及課からは、病害抑制を考慮した換気、加温方法などについてアドバイスを行いました。

農業改良普及課は、今後も生産者への情報提供を行い、生産の安定に向けた支援をしていく予定です。

集落営農組織のステップアップに向けて（第 2 回香美市集落営農塾）



取り組み等についてお聞きしている様子



整備機械等を見学している様子

12 月 1 日に第 2 回目の香美市集落営農塾として、中土佐町の(農)大野見野の風と神母野営農組合を視察し、関係機関を含めて 28 名が参加しました。

2 組織が 1 法人に集約して規模拡大を行ったり、併せて中山間直払の広域連携により交付金の加算分を事務委託費に充てるなど、有効な活用事例を伺いました。

また、組合が機械を個人に賃借して有効活用したり、WCS など主食用米以外の作物にも取り組み、組合内で耕畜連携を行うなど、地域内の多様な資源の活用方法も学びました。

アンケート結果などから、「法人化を進めていきたい」や、「広域化も将来構想の参考になった」等と前向きな意見が出されました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と協力して、地域に応じた集落営農組織のステップアップを支援していきます。

青ねぎ地区別現地検討会を開催



現地ほ場で夏秋期の生育状況を確認

J A土佐香美洋菜部会は、11 月 22 日から 11 月 30 日にかけて、管内 5 か所で青ねぎの研修会を開催し、生産者のべ 56 名が参加しました。

農業改良普及課からは農業技術センターで実施した系統・肥料試験を、J Aからは病虫害防除や栽培管理のポイントを紹介しました。また、実生ねぎと合黒ねぎの調製作業の相違点、速さについての調査結果を示し、栽培や作業の改善について提案しました。

参加者からは、肥効率の高い優良農家の肥培管理や、実生ねぎの夏作などに関心が集まりました。

農業改良普及課では、今後も青ねぎの周年安定生産に向け、若手農家を中心に組織活動を支援します。

組織化に向け、集落営農の先進事例研修を実施



乾燥調整の予約方法等について質問する参加者

12月5日、集落営農の組織化を考えている香南市赤岡町の農家4名と香南市職員3名が香美市の西永野集落営農組合を視察しました。

農業改良普及課は、組織化志向農家の意向を踏まえ、集落営農の先進事例研修を設定しました。

参加者からの「個人の水稻の機械はどうしているか」などの質問に対しては、「使用頻度が少ないコンバインなどは共同化しているが、使う機会の多いトラクターは個人が所有し必要に応じて組合が借り上げ、利用料金を支払う」との回答があり、納得した様子でした。

また、地域での合意方法については、アンケート調査結果を活用したことなど、農家から実際の組織化の方法が聞けて参考になったようでした。

農業改良普及課は、今後も、香南市とも連携して組織化を推進します。